



### 小学部5学年2組 国語科

### 「ブレーメンのおんがくたい」

#### 児童の目指す姿

- ・物語に登場する動物の鳴き声の擬声語を取り上げ、鳴きまね遊びや「一緒に行こう」「おー」の言葉のやり取りを楽しみながら、自分の表現方法（楽器やアプリ、iOAK、表情など）で応えたり、泥棒を追い出す場面で大きな声や大きな音を出そうと意識して表したりすることを目指している。

#### 単元構想 指導案検討会より

- ・やり取りをする際の表出や表現の仕方が小さい児童の表現方法の一つに、楽器を入れてもいいのではないかと。題材との関連性をもつことができる。
- ・児童数と登場する動物の数を同じにすると、一人一人がやりたい動物の役になりきってお話遊びをすることができる。



#### 児童生徒の学びの姿

##### 主体的な学び

- ・ペープサートに注目したり、笑顔が見られたりした。
- ・表現方法をどうするか教師の問い掛けに、個々の表現方法で応えていた。

##### 対話的な学び

- ・表現方法によるグルーピングで、いろいろな教師とやり取りの練習ができた。
- ・ロバの誘い掛け（対面、楽器）や、友達の様子に注目する姿が見られた。

##### 深い学び

- ・「一緒に行こう」に応えた後、移動しトンネルをくぐることで、言葉と動作が結びつきやすかった。
- ・ロバや楽しい雰囲気トンネルが伝えたい気持ちを引き出していた。

#### 授業研究会から（課題、改善点、指導助言）

- ・児童の学習課題を明確化し、教師の意図や手立てが結び付いた教材選定や教材研究がとても重要である。
- ・「一緒に行こう」という言葉の汎用性の高さを生かしていくこと、学習活動に変化を付け、次の学びや生活へどう広げていくのかという視点で授業づくりをしていくことが必要である。

○児童の表出を言語化し、価値付けするフィードバック、即時評価が有効的だった。

○アクティブラーニングにつながる「選ぶ」活動（自立活動を参考にした選択肢）が重要である。

△教師の働き掛け（言葉の精選）や児童の反応を引き出す時間の確保がもっとあってもよい。

#### 題材を通しての成果と課題

- ・国語科の授業の中で「一緒に行こう」と誘い掛けると、トンネルの方を見る様子が見られた児童があり、見通しをもつことにつながっている。
- ・教師が担っていたロバ役を児童に変えて学習活動を行ったが、ロバ役の児童の誘い掛け（「いっしょに行こう」）にも応える様子が見られた児童があり、ロバ役の人は変わってもロバは同じということの理解、構成概念の広がりにつながってきている。
- ・国語科の学習場面だけでなく、生活の中で「一緒に行こう」という言葉を使っていくことで、学びを生活場面へと広げていきたい。